

GC/MSデータベースを活用した化学物質モニタリングに関する研究（継続課題）

実施機関：保健環境研究所環境科学部

調査研究期間：令和5年度～令和7年度

<背景>

- 私たちの豊かな生活を支える化学物質は、使用すると排水から河川へ流れている。
- どのような化学物質が河川に存在するのか実態を把握する必要性が高い。
- 従来の分析法には様々な課題がある。
 - 一度で分析できる化学物質の数に限界
 - 毎回の分析で分析対象の化学物質（標準品）が必要



○新たな分析方法の開発

「GC/MSデータベースによるスクリーニング分析法」

- 多くの化学物質(1000種以上)を同時に分析可能
- 標準品不要
- 災害等緊急時調査などで他機関でも使用

<目的>

○岐阜県内河川水中の化学物質の種類や濃度を把握

- 影響が考えられる化学物質を把握する。
- 緊急時にどんな化学物質が流出したのかを考えるため、平常時の状況を知る。

○データベースへ新たに登録する化学物質の選定（全国の環境研究所との協力による）

<経過報告及び今後の方向性>

- 2023年4月～2024年3月までの木曽川水系（9地点）、長良川水系（6地点）、揖斐川水系（6地点）の調査完了
- 農薬や医薬品、工業用添加剤など約40種類の化学物質を確認
- 今後は測定データの更なる解析に加え、降水等による化学物質動態への影響を調査予定

